

..... パーツ交換に取りかかる前に、必ずチェックリストに従って点検作業を行ってください。

【保管用】

アイルウォーク ^{ライト} Light パーツ交換マニュアル

この「パーツ交換マニュアル」を必ずお読みいただき、大切に保管してください。

この「パーツ交換マニュアル」を必ずお読みいただき、十分ご理解の上、「メンテナンスチェックリスト」・「メンテナンスガイド」に従って作業をすすめてください。

なお、交換時のトラブルなどに関しては、一切の保証をいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

※この「パーツ交換マニュアル」による作業は、弊社契約の自社でレンタル、メンテナンスを行っている事業者様に限ります。

※メーカー修理対応時の返送料は、お客様のご負担となります。

※製品の品質向上のため、仕様・外観は予告なしに変更することがあります。

目次

正しいメンテナンス作業のながれ	1
パーツ交換にあたって	1
1. フレーム交換について	2
2. ハンドル交換について	2
3-1. ブレーキ設定について	3
3-2. 座面連動プレートの調整について	4
4. バック部系統	6
5. 補修系統	8
6. シール系統	9
7. バネ系統	10
8. ネジ系統	11
9. 樹脂パーツ①	14
10. 樹脂パーツ②	14
11. 車輪系統	16
12. ブレーキ系統	19
13. 附属パーツ系統	24
車体の保管・お手入れ・破棄について	25

このガイドに関しまして、ご不明な点やご質問などがありましたら、
弊社サービス係までお問い合わせください。



株式会社 アイリンク
〒700-0971 岡山市北区野田 3-16-1 下電開発ビル 2F

TEL 086-805-4550
FAX 086-805-4551

正しいメンテナンス作業のながれ

メンテナンスチェックリストに従って点検作業を行います。購入年月日、実施日、回数及び実施者の各項目に記入し、メンテナンスチェックリストの項目に沿って点検作業を進めてください。

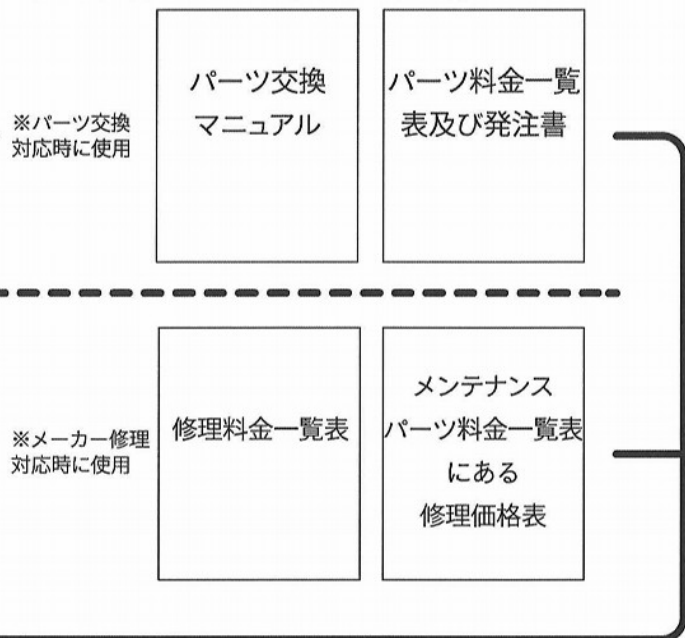
点検作業のなかで、異常や劣化などが見つかった場合は、必要に応じて「メンテナンスパーツ料金一覧表にある修理価格表」・「修理料金一覧表」を参照し、メーカーに修理を依頼してください。もしくは「メンテナンスパーツ料金一覧表及び発注書」・「パーツ交換マニュアル」を参照し、十分にご理解いただき、パーツを取り寄せ、交換を行ってください。

交換までの作業を一通り終了した際は、その車体を再度メンテナンスチェックリストに従い、点検作業を行い、異常や劣化のない車体に仕上げてください。

①点検作業を行う



②必要に応じてパーツ交換、修理を行う



③再度、点検作業を行います。
異常がなければ、メンテナンス完了です。
異常があった場合は②を行ってください。

⚠ パーツ交換にあたって

- ◆メンテナンスチェックリストに従い、交換するパーツを特定してください。
- ◆パーツ購入の際は、ご使用分を目安としてご購入ください。また、ご購入された交換用パーツは、長期間保存せずに早めにご使用ください。パーツの長期間の保存は、劣化・不良をまねく原因となることがあります。
- ◆交換するパーツに含まれる、附属パーツ(ナット類、ワッシャー類など)も必ず交換してください。
- ◆お取り寄せいただいたパーツは改造などせず、交換作業を行ってください。
- ◆お取り寄せいただいたパーツはパーツ交換以外の用途で使用しないでください。
- ◆弊社では、フレームの塗装は一切行っておりません。各事業所での補修をお願い致します。
- ◆スプレー缶などのエアゾール塗料は、可燃ガスと有機溶剤が入っているため、火気及び換気に十分注意してください。
- ◆パーツ交換作業時、車体を地面に倒すことがあります。車体を傷つけないよう注意してください。
- ◆前輪・後輪の交換時は、必ずそれぞれの左右4輪又は2輪を交換してください。
- ◆交換作業を行った箇所のナット類の『締め忘れ』がないか必ず確認してください。
- ◆車輪のナットの締め付けには十分注意してください。締め付けがあまりい場合、車輪が脱落する恐れがあります。また、過度に締め付けられた場合、車輪の回転が悪くなる場合があります。

1. フレーム交換について

WL0101：フレーム

<フレーム交換の概要>

お取り寄せされるフレームはバッグ部本体のみ装着されていないものとお考えください。

※保証書付きの取扱説明書はフレームに付属しています。

◆フレーム交換になりえる要素

- ◎溶接外れのため修理が不可能とされる車体、過度のフレームの歪みのある車体、パイプの歪みがある車体
- ◎各パーツの損傷や異常が多い場合
- ◎メーカーへ修理依頼の際、修理不可能と判断された場合

WL0103：本体補強パイプ

◎本体補強パイプに凹みや錆がある場合、交換してください。

◎本体補強パイプに歪みがある場合は、フレームも歪んでいる場合があります。メーカーへ修理依頼、またはフレームの交換を行ってください。



イメージ図

2. ハンドル交換について

WL0102：ハンドル

<取り付け方法>

1. ブレーキワイヤー(左右)を車体から外す

- ①ブレーキワイヤーエンドかぶせ(左右)を外す
- ②ワイヤー止めナット(左右)からブレーキワイヤー(左右)を外す
- ③ワイヤー流れ止め(左右)からブレーキワイヤー(左右)を外す

2. ハンドルを外す

- ①ハンドル高さ調節部ノブナット(左右)を回し、ハンドル高さ調節部六角ボルト(左右)、ハンドル高さ調節部波型ワッシャー(左右)を外す
 - ②ハンドルをゆっくり引き上げる
- ※取り外したパーツは取り付けに使用するので大切に保管してください。

3. ハンドルを取り付ける

- ①ハンドルを車体にゆっくりはめ込む
 - ②ブレーキワイヤー(左右)をワイヤー流れ止め(左右)に通す
 - ③ブレーキ調節ネジ(左右)に通す
 - ④ワイヤー止めナット(左右)に通す
 - ⑤ハンドル高さ調節部六角ボルト(左右)を高さ調節穴の最上段に差し込む
- ※差し込みの際、ハンドル側の六角穴(高さ調節穴)に沿い、しっかりと差し込んでください。
- ⑥ハンドルの高さ調節部波型ワッシャー(左右)、ハンドル高さ調節部ノブナット(左右)の順に差し込み、しっかりと回し、はめ込み固定する
 - ⑦ワイヤーの先端(左右)にブレーキワイヤーエンドかぶせ(左右)を取り付ける

※ブレーキワイヤーエンドかぶせは、お取り寄せされたハンドルに付属している新しいものを使用してください。

4. ブレーキ設定をする

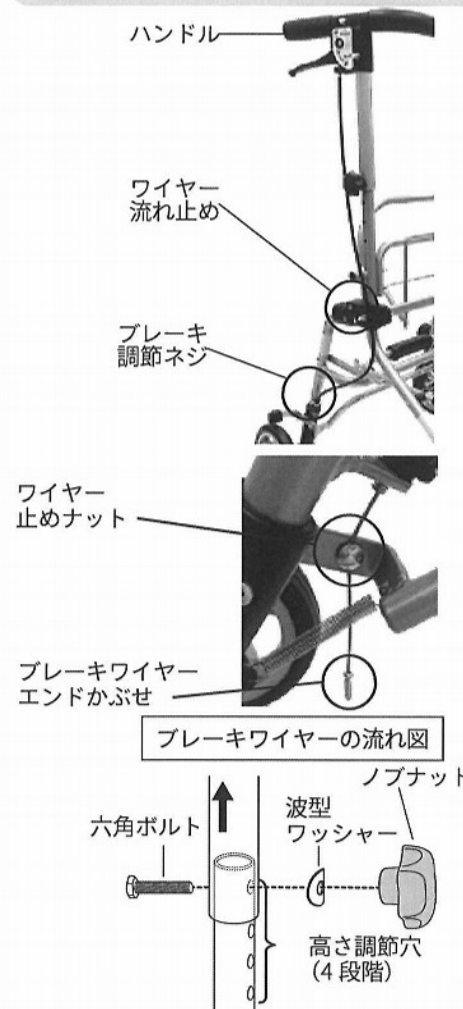
※P.3「ブレーキ設定について」参照

5. 座面連動プレートの調整を行う

※P.4「座面連動プレートの調整について」参照

必要
工具

10mm ラチェットレンチ
ペンチ、ラジオペンチ

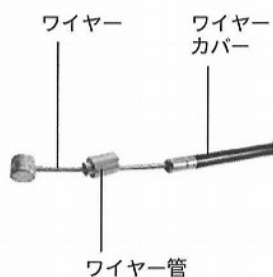


3-1. ブレーキ設定について

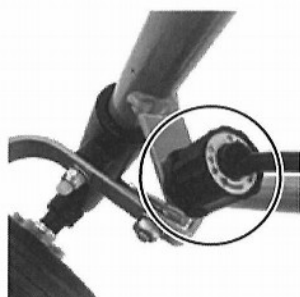
<ブレーキ設定前の確認>

※下記内容をブレーキ設定前に必ず確認してください。

確認内容	対処方法
◆フレームに歪みがない	⇒メーカー修理、又はフレーム交換 ※P.2「フレーム交換について」参照
◆ブレーキワイヤーにワイヤー管が装着されている ※下図参照	⇒ワイヤー管を取り付ける ※下図参照
◆ブレーキワイヤーが折れていない	⇒ブレーキワイヤーの交換 ※P.20「ブレーキワイヤー」参照
◆ワイヤーを通した状態で、ワイヤーカバーがスムーズに動く※下図参照	⇒ブレーキワイヤーの交換 ※P.20「ブレーキワイヤー」参照
◆ブレーキワイヤーがハンドルから順にワイヤー流れ止め⇒ブレーキ調節ネジ⇒ワイヤー止めナットの順に通っている	⇒ブレーキワイヤーを左記の順に通す ※P.2「ブレーキワイヤーの流れ図」参照
◆ブレーキワイヤーの先端にブレーキワイヤーエンドかぶせが装着されている	⇒ブレーキワイヤーエンドかぶせを装着 ※P.24「ブレーキワイヤーエンドかぶせ」参照
◆ハンドルの高さが最上段で固定されている	⇒ハンドルの高さを最上段で固定する
◆ブレーキ調節ネジがきちんと締められている	⇒左右を締め付ける※下図参照
◆座面連動プレートが初期状態になっている (初期状態とは、ネジの位置及びリベットが下図のように なっている事を指します)	⇒下図参照、又は該当パーツの交換 ※P.13「座面連動プレート連結部ネジ」参照 ※P.23「座面連動プレート連結板」参照 ※P.23「ブレーキプレート」参照
◆座面連動プレートがスムーズに動く	⇒メーカー修理、又は該当パーツの交換 ※P.13「座面連動プレート連結部ネジ」参照 ※P.23「座面連動プレート連結板」参照 ※P.23「ブレーキプレート」参照
◆後車輪が破損・摩耗していない	⇒後車輪を交換する ※P.16「後車輪」参照
◆ブレーキタイヤ押さえの車輪と接する箇所が破損・ 摩耗していない※下図参照	⇒ブレーキタイヤ押さえを交換する ※P.15「ブレーキタイヤ押さえ」参照



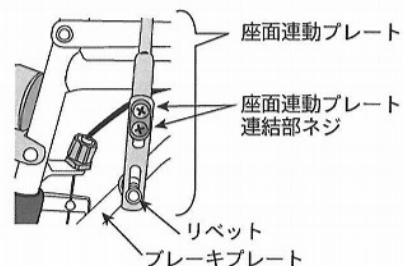
ブレーキワイヤー



ブレーキ調節ネジ
が締まった状態



ブレーキタイヤ押さえ



座面連動プレート

設定方法

- ①ワイヤー止めナット(左右)を緩める
- ②ブレーキワイヤーの片側どちらかの先端をラジオペンチで真下に引っ張りながら、ブレーキタイヤ押さえと車輪の距離を約 4.0mm に保ちつつ、ワイヤー止めナットを 10mm ラチェットレンチで締める

ポイント

- ◆ブレーキワイヤーの先端を引っ張る力はワイヤーのたるみをなくす程度です。
- ◆ブレーキレバーはロックした位置ではなく、ニュートラルの状態を設定を行ってください。

設定後の確認

- ◆P.5の「ブレーキ設定後の確認」の項目をよく確認してください。
- ※ブレーキレバーの『あそび』がある場合は、P.5「ブレーキレバーの『あそび』について」の項目を参考にしてください。

必要
工具

10mm ラチェットレンチ
ラジオペンチ



ニュートラルの状態

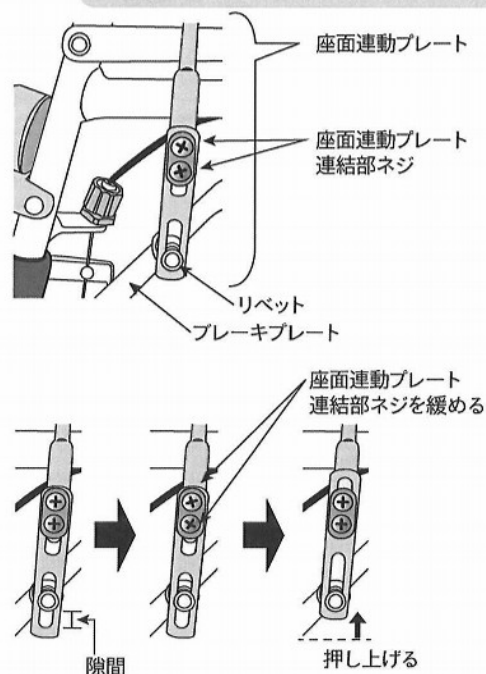
- ⚠注意
ブレーキレバーをニュートラルの状態にするためには、ブレーキワイヤーの先端をラジオペンチで真下に引っ張りながら、ブレーキレバーを一度軽く握ります。

3-2. 座面連動プレートの調整について

- ※ブレーキ設定の後に、座面連動プレートとブレーキプレートを連結しているリベット部分に隙間が生じます。
- 下記の手順で、調整を行ってください。

必要
工具

プラスドライバー(3番)



調整方法

- ①座面連動プレート連結部ネジを緩める
- ②座面連動プレートを押し上げ、緩めたネジを締める

調整後の確認

- ◆P.5の「ブレーキ設定後の確認」の項目をよく確認してください。
- ※座面連動プレートの調整後に『あそび』がある場合は、P.5「ブレーキレバーの『あそび』について」の項目を参考にしてください。

<ブレーキ設定後の確認>

※下記内容をブレーキ設定後に必ず確認してください。

確認内容	対処方法
◆静止した状態でブレーキレバーを片方ずつ握り、ブレーキストoppaが確実に連動して作動する	⇒ブレーキワイヤーの先端を引っ張りながら、ワイヤー止めナットを締める際、ブレーキレバーがニュートラル状態でない可能性があります。「ブレーキ設定前の確認」より確認してください。
◆静止した状態でブレーキレバーを真下に下げると駐車用ストoppaがかかる	⇒ブレーキタイヤ押さえと車輪の距離が開きすぎている可能性があります。「ブレーキ設定前の確認」より確認してください。
◆ゆっくり歩きながら両側のブレーキレバーを握ると、ブレーキが効く	⇒ブレーキタイヤ押さえと車輪の距離が開きすぎている可能性があります。「ブレーキ設定前の確認」より確認してください。
◆ブレーキレバーを片方ずつ握り、ブレーキレバーのあそびがない	⇒ブレーキレバーの『あそび』がある場合は、下記「ブレーキレバーの『あそび』について」の項目を参考にしてください。
◆静止した状態で座面を下ろすと座面連動プレートが作動し、両後輪に駐車用ストoppaがかかる	⇒座面連動プレートとブレーキ設定が機能していない可能性があります。「ブレーキ設定前の確認」より確認してください。

※ブレーキの設定は非常に重要です。ブレーキが効かない、駐車用ストoppaがかからないなど不都合があると重大な事故につながりかねません。十分に動作確認を行ってください。

※「対処方法」より修正を行っても改善されない場合は、当社サービス係にて対応致します。

ブレーキレバーの『あそび』について

ブレーキレバーを握ったときにブレーキストoppaがすぐに連動せず、時間差が生じることがあります。ブレーキレバーをゆっくりと真上に引き上げるとき、実際にブレーキプレートが動き出すまでの「距離」「時間」などを総称的に『あそび』と呼びます。

ブレーキレバーの『あそび』の主な原因

- ◆ブレーキ設定は、片方ずつブレーキワイヤーを引っ張りながら、ワイヤー止めナットを締めます。その際にどちらかのブレーキワイヤーを強い力で引っ張ってしまい、ワイヤー止めナットを締めたために、ブレーキワイヤーの左右のバランスが影響し、ブレーキプレート自体が左右どちらかに傾いている可能性があります。
- ◆ブレーキワイヤーはいくつかの細かいワイヤーを束ねて形成されています。ワイヤーが破損し、ワイヤーカバーに引っかかり、ワイヤーカバー内で摩擦が生じてワイヤー自体の動きを鈍らせている可能性があります。
- ◆ブレーキ作動板の向きが逆に取り付けられている可能性があります。

※『あそび』には他にも様々な要因があります。ブレーキ設定を行わなければならないパーツ交換の作業を行った場合、マニュアル通りに装着されていない可能性も含め、確認をしてください。確認後、『あそび』が修正されない場合は当社サービス係にて対応致します。

4. バッグ部系統

WL0311：バッグ部本体(座面+バッグ+底板)

WL0321：バッグ部本体(座面+バッグ+底板)



<取り付け・取り外し方法>

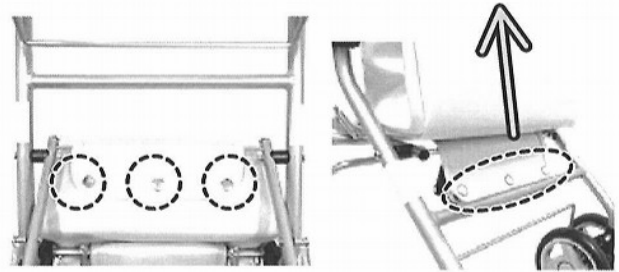
バッグ

◆取り外し

- ①バッグ底面のホック3ヶ所を外す
- ②バッグを真上に持ち上げ、背面にあるポケット部分をバッグ差込フレームから外す

◆取り付け

- ①バッグ背面のポケットをバッグ差込フレームに差し込む
- ②バッグ底面のホック3ヶ所を留める



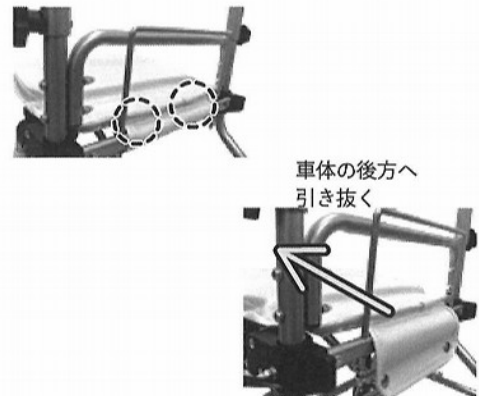
座面

◆取り外し

- ①座面は袋状になり、座面可動パイプに差し込んだ状態になっている
- ②座面を持ち上げ、裏側(袋内の)ホック1ヶ所を外し、バッグ差込フレーム側パイプのホック2ヶ所を外す
- ③座面を後方に引っ張り、座面可動パイプから抜く

◆取り付け

- ①座面を座面可動パイプにゆっくりと差し込み、座面受け可動パイプ部バッグ側(図参照)にホック2ヶ所と、座面を持ち上げ裏側(袋内の)ホック1ヶ所を留める



WL0302：底板

<取り付け方法>

- ①バッグを開け、バッグ底面に入れる



WL0303：傘止めバンド(ボタン式)

<取り付け方法>

- ①ハンドルの左パイプ部に巻き付けるようにしてボタン1ヶ所を留める

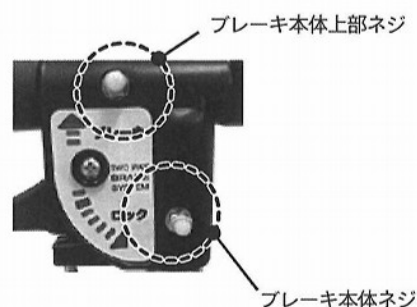
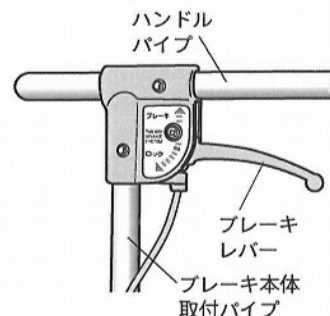


WL0304：ハンドル用ウレタンスポンジ

<取り外し・取り付け方法>

- ①交換するハンドル用ウレタンスポンジにカッターナイフで切り目を入れ、手で裂いて取り外し、取り外した箇所のパイプの汚れなどを拭き取る
 - ②ハンドルグリップ(左右)を外す
 - ③ブレーキレバー(左右)を外す
 - ④ブレーキ本体ネジ(左右)を外し、ブレーキ本体取付パイプからブレーキ本体を抜く
 - ⑤ブレーキ本体上部ネジ(左右)を外し、ブレーキ本体からハンドルパイプを抜く
- ※取り外した袋ナット以外のパーツは取り付けに使用します。無くさないよう、ご注意ください。
- ⑥ハンドル用ウレタンスポンジの穴に水をつけて、ハンドルパイプの装着位置へゆっくりとはめ込む
 - ※水をつけたハンドル用ウレタンスポンジは内側面に少し水分を残す程度です。外側面の水分は拭き取ってください。
 - ⑦ブレーキ本体にハンドルパイプを取り付ける
 - ⑧ブレーキ本体取付パイプにブレーキ本体を取り付ける
 - ⑨ブレーキレバー(左右)を取り付ける
 - ⑩ハンドルグリップ(左右)を取り付ける
 - ⑪ブレーキ設定を行う
 - ⑫座面連動プレートの調整を行う
- ※座面連動プレートの調整はブレーキ設定をした際に、必ず行ってください。
- ※P.14「ハンドルグリップ」参照
 ※P.11「ブレーキ本体ネジ」参照
 ※P.3「ブレーキ設定について」参照

**必要
工具**
 8mm ラチェットレンチ
 かペンチ
 プラスドライバー(3番)
 カッターナイフ



- ※取り付け後、日陰などで自然乾燥を行ってください。
- ※取り付けの際、袋ナットはお取り寄せされたハンドル用ウレタンスポンジに付属している新しいものを使用してください。
- ※基本的には、ハンドルグリップもカッターで切り取りますので、交換の際はハンドルグリップもお取り寄せされることを推奨します。
- ※カッターナイフの取扱いには、十分注意してください。

<取り付け後の確認>

- ①ハンドル用ウレタンスポンジがきちんと取り付けられていることを確認する

WL0305：折りたたみレバー部カバー

<取り付け方法>

- ①折りたたみレバー部のパイプに巻きつけるようにカバーを取り付ける

WL0306：バッグ差込フレーム

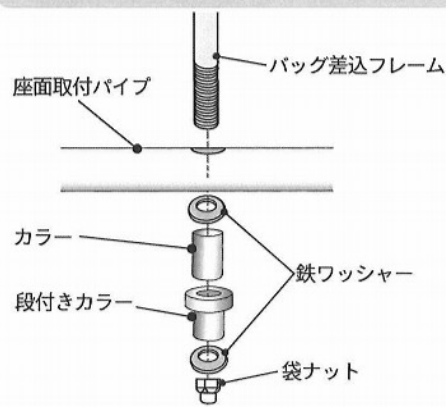
<取り付け方法>

- ①座面折りたたみバネ(左右)を外す
- ②バッグ差込フレームの袋ナット(左右)を外す
- ③バッグ差込フレームを交換し、袋ナット(左右)を取り付ける
- ④座面折りたたみバネ(左右)を取り付ける

<取り付け後の確認>

- ①鉄ワッシャー、カラー、段付きカラーが正確に取り付けられていることを確認する
 - ②座面折りたたみバネが正確に取り付けられていることを確認する
- ※P.10「座面折りたたみバネ」参照

**必要
工具**
 8mm ラチェットレンチ
 かペンチ
 ラジオペンチ



5. 補修系統

WL0401：スプレー塗料 300ml

- ◆スプレー缶などのエアゾール塗料は、可燃ガスと有機溶剤が入っているため、火気及び換気に十分注意してください。
- ◆スプレー塗料の使用時、乾燥時ともに換気をよくし、マスクや手袋を着用して塗料のミストを吸い込んだり、皮膚に触れないように注意してください。
- ◆スプレー塗料のご使用前に、スプレー塗料本体に表示されている説明をよく読み、ご使用・保管してください。
- ◆スプレー塗料はフレーム部分の「塗料剥げ」・「傷」の補修専用です。樹脂部分には使用しないでください。
- ◆補修前には、必ず補修部分の油分や錆、ほこりを取り除いてください。



<補修方法>

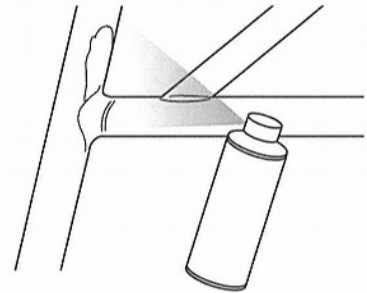
①補修面の油分や錆、ほこりなどをよく落とす

②塗料が補修面以外に付着しないように、保護をする

③深い傷は、下の塗料がよく乾いてから、数回重ね塗りをする

※スプレー塗料の色味は新品の車体の色が基準となっています。補修される部分の色の変退色により、色味が正確に合わないことがあります。

**必要
工具** マスキングテープなど
補修面以外を保護するもの



6. シール系統

WL0501：反射シール

<弊社推奨 取り付け方法>

- ①車体に貼付されている反射シールの上に新しい反射シールを貼る

<その他 取り付け方法>

- ①車体に貼付されている反射シールをドライヤーで温める
- ②マイナスドライバーでそぎ落とすように剥がす
※マイナスドライバーで剥がす際、パイプを傷つけないように気を付けてください。
- ③剥がしたパイプに新しい反射シールを貼る

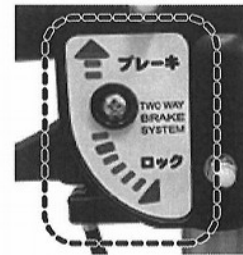
必要
工具

マイナスドライバー
布

WL0502：ブレーキシール(左右 2 枚 SET)

<取り付け方法>

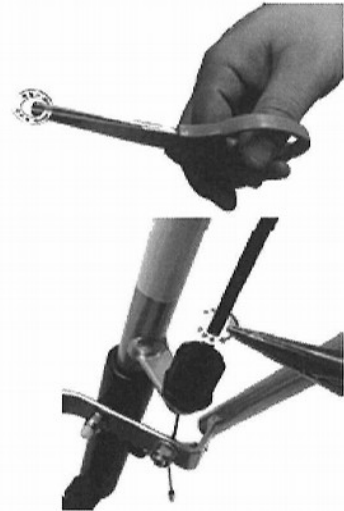
- ①古いブレーキシールを剥がし、シールの左右を確認して新しいブレーキシールを貼る
※ブレーキシール貼付箇所の樹脂は、シールの形状に凹んでいます。左右のブレーキシールを形状に合わせて貼付してください。



WL0503：ブレーキ調節シール

<取り付け方法①>

- ①古いブレーキ調節シールを剥がす
- ②新しいブレーキ調節シールにハサミなどで1ヶ所切り込みを入れ、ピンセットで持ち、ブレーキワイヤーに差し込みながら貼る
※ピンセットなどで貼付したシール上面を軽く押さえ、確実に貼ります。



<取り付け方法②>

- ①ブレーキワイヤーをブレーキ調節ネジから抜く
- ②シールをピンセットで持ち、ブレーキ調節ネジに貼る
※P.21「ブレーキ調節ネジ」参照
※お取り寄せされたブレーキ調節シールにはブレーキワイヤーエンドかぶせは付属されておりません。別途、お取り寄せが必要です。

WL0504：注意シール

<取り付け方法>

- ①古い注意シールを剥がし、新しい注意シールを貼る



7. バネ系統

- ◆バネを取り付ける際は、バネの先端で指などを傷つけないように注意してください。
- ◆バネを取り付ける際に、無理に引き伸ばすとバネが伸びきり、バネの伸縮性が悪くなりますので注意してください。

必要
工具

ラジオペンチ

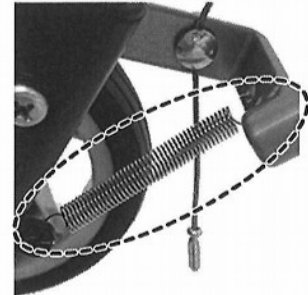
WL0601：後輪ブレーキバネ

<取り付け方法>

- ①後車輪の内側に後輪ブレーキバネを取り付ける

<取り付け後の確認>

- ①ブレーキレバーを握りブレーキが正常に作動することを確認する
※右図を参照し、取り付けの向き、バネの先端の向きに注意してください。



WL0602：前輪キャストバネ

<取り付け方法>

- ①前輪キャスト部と前輪キャスト上部樹脂にある、樹脂の突起に取り付ける
※前輪キャストバネの先端の円状になっている引っ掛け部の形状は、左右同じです。右図のように取り付けてください。

<取り付け後の確認>

- ①前輪キャストを左右に振り、スムーズに正面方向へ転換することを確認する



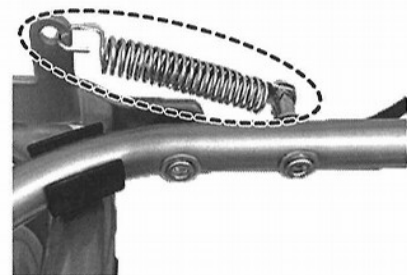
WL0603：本体折りたたみバネ

<取り付け方法>

- ①本体折りたたみバネ掛け部のリベットと本体開閉用可動プレートに取り付ける
※車体を折りたたんだ状態で取り付けると取り付けやすいです。
※右図を参照し、取り付けの向き、バネの先端の向きに注意してください。

<取り付け後の確認>

- ①車体の開閉を数回行い、バネが外れないことを確認する
- ②車体を折りたたんだ状態が維持出来ることを確認する



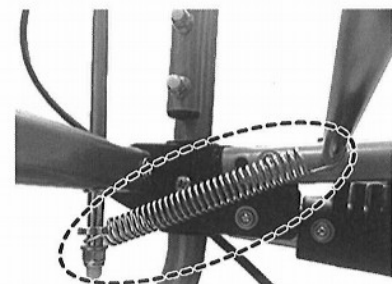
WL0604：座面折りたたみバネ

<取り付け方法>

- ①座面折りたたみ可動パイプ部の引っ掛け棒と車体内側のバッグ差込フレームのバネ掛け部に取り付ける
※右図を参照し、取り付けの向き、バネの先端の向きに注意してください。

<取り付け後の確認>

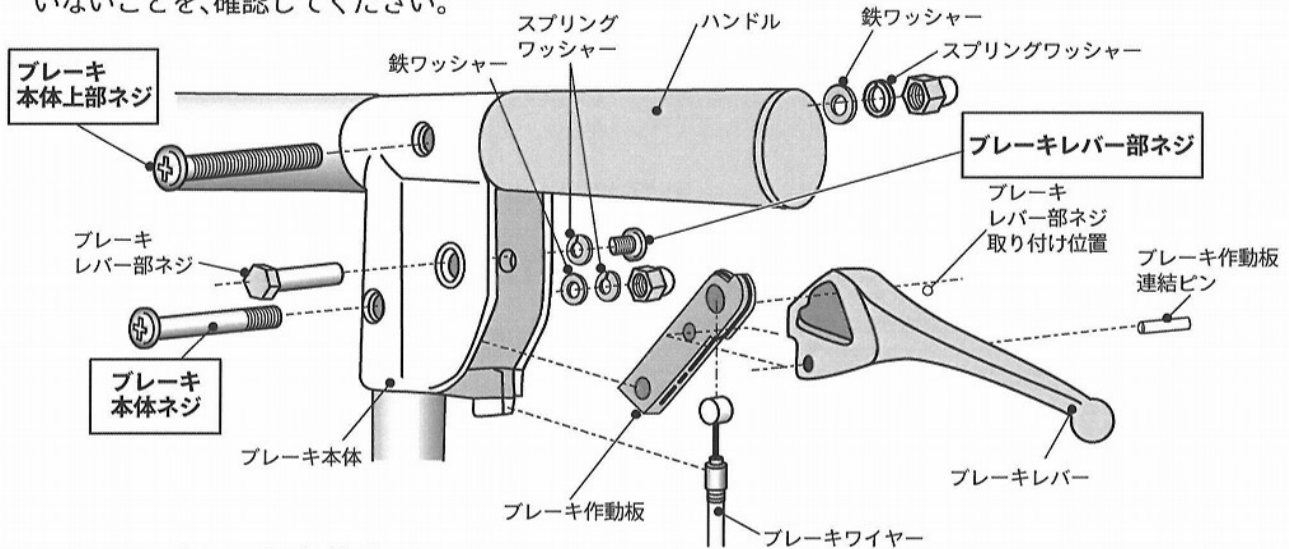
- ①座面を折りたたんだ状態で簡単に座面が倒れないことを確認する



8. ネジ系統

- ◆お取り寄せしていただいたネジセットに含まれる、附属パーツ（袋ナット・ワッシャー類）も必ず交換してください。
- ◆袋ナットを締める際は、ナットの袋部分に十分ネジが入っていることを確認してください。
- ◆取り付け後、確認項目の作業を行い、袋ナットに緩みが生じていないことを、確認してください。

**必要
工具**
8mm ラチェットレンチ
かペンチ
ブラstdライバー(3番)



WL0701：ブレーキ本体ネジ

<取り付け方法>

- ①ネジの向き、鉄ワッシャー、スプリングワッシャーを正確に取り付ける

<取り付け後の確認>

- ①ブレーキレバーを握りブレーキが正常に作動することを確認する
 - ②ブレーキレバーをロック位置にした時に駐車用ストoppaが正常に作動することを確認する
- ※袋ナットを締める際、袋ナットの袋部分に十分ネジが入り込んでいることを確認してください。

WL0702：ブレーキ本体上部ネジ

<取り付け方法>

- ①ネジの向き、鉄ワッシャー、スプリングワッシャーを正確に取り付ける

<取り付け後の確認>

- ①ブレーキレバーを握りブレーキが正常に作動することを確認する
 - ②ブレーキレバーをロック位置にした時に駐車用ストoppaが正常に作動することを確認する
- ※袋ナットを締める際、袋ナットの袋部分に十分ネジが入り込んでいることを確認してください。

WL0703：ブレーキレバー部ネジ

<取り付け方法>

- ①ネジの向き、スプリングワッシャーを正確に取り付ける

<取り付け後の確認>

- ①ブレーキレバーを握りブレーキが正常に作動することを確認する
- ②ブレーキレバーをロック位置にした時に駐車用ストoppaが正常に作動するか確認する

WL0704：前輪キャスト受けネジ

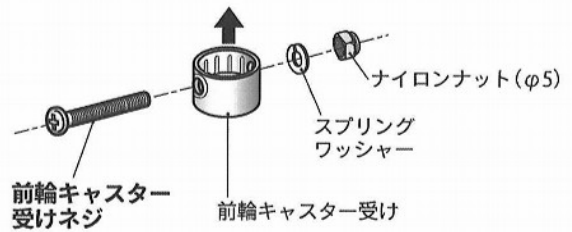
<取り付け方法>

- ①ネジの向き、スプリングワッシャーを正確に取り付ける

<取り付け後の確認>

- ①キャスト受けが前脚パイプにしっかりと取り付けられていることを確認する
- ※ナイロンナットを締める際、ナイロンナットの樹脂部分に十分ネジが入り込んでいることを確認してください。

必要工具
8mm ラチェットレンチ
かペンチ
プラスドライバー (3番)



WL0705：前輪キャスト上部樹脂取付ネジ

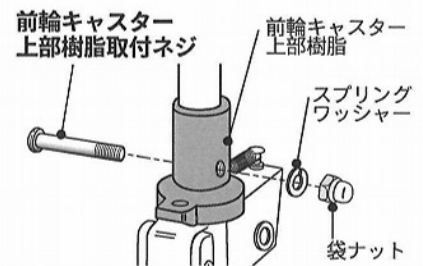
<取り付け方法>

- ①ネジの向き、スプリングワッシャーを正確に取り付ける

<取り付け後の確認>

- ①前輪キャスト上部樹脂が前輪パイプにしっかりと取り付けられていることを確認する
- ※袋ナットを締める際、袋ナットの袋部分に十分ネジが入り込んでいることを確認してください。

必要工具
8mm ラチェットレンチ
かペンチ
プラスドライバー (3番)



WL0706：ワイヤー流れ止めネジ

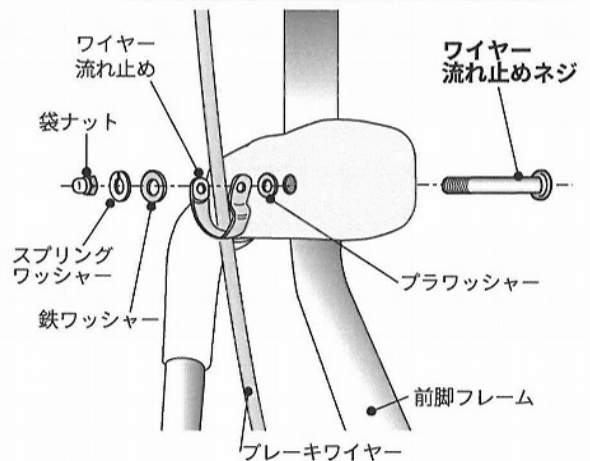
<取り付け方法>

- ①ワイヤー流れ止めにブレーキワイヤーを挟み込み、ネジの向き、プラワッシャー、鉄ワッシャー、スプリングワッシャーを正確に取り付ける

<取り付け後の確認>

- ①ワイヤー流れ止めが正確に取り付けられていることを確認する
 - ②ブレーキワイヤーがブレーキワイヤー流れ止めを通っていることを確認する
- ※P.2「ブレーキワイヤーの流れ図」参照
- ※袋ナットを締める際、袋ナットの袋部分に十分ネジが入り込んでいることを確認してください。
- ※ワイヤー流れ止めネジの取り付け後の確認は特に慎重に行ってください。この箇所は車体のバランスを保つための重要な箇所です。開閉動作やバランスに違和感がある場合はメーカーへ修理の依頼をしてください。

必要工具
8mm ラチェットレンチ
かペンチ
プラスドライバー (3番)



必要工具
8mm ラチェットレンチ
かペンチ
プラスドライバー (3番)

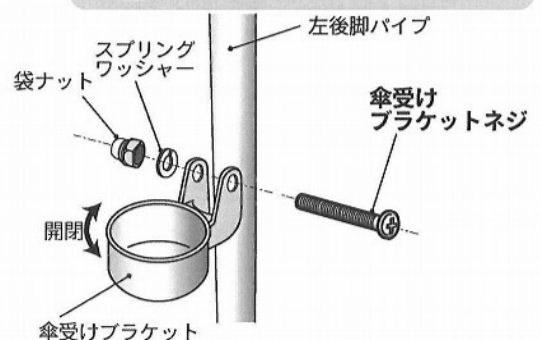
WL0707：傘受けブラケットネジ

<取り付け方法>

- ①ネジの向き、スプリングワッシャーを正確に取り付ける

<取り付け後の確認>

- ①傘受けブラケットが左後脚パイプにしっかりと取り付けられていることを確認する
 - ②傘受けブラケットの開閉が行えることを確認する
- ※袋ナットを締める際、袋ナットの袋部分に十分ネジが入り込んでいることを確認してください。



WL0708：ブレーキプレート取付ネジ

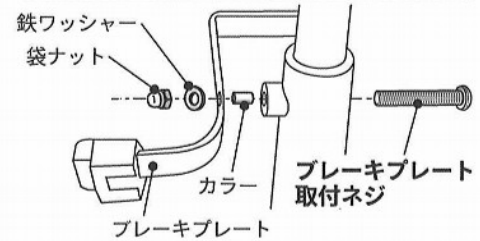
<取り付け方法>

- ①ネジ、カラー、鉄ワッシャーを正確に取り付ける

<取り付け後の確認>

- ①ブレーキレバーを握り、ブレーキが正常に作動することを確認する
 - ②ブレーキレバーをロック位置にした時に、駐車用ストoppaが正常に作動することを確認する
 - ③座面を下ろしたときに、座面連動プレートが正常に作動することを確認する
- ※袋ナットを締める際、袋ナットの袋部分に十分ネジが入り込んでいることを確認してください。

必要工具
8mm ラチェットレンチ
かペンチ
プラスドライバー (3番)



WL0709：折りたたみレバーパイプ部ネジ

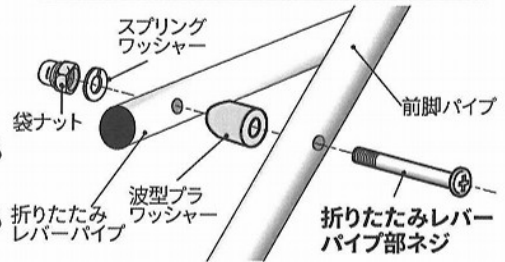
<取り付け方法>

- ①ネジ、波型プラワッシャー、スプリングワッシャーを正確に取り付ける

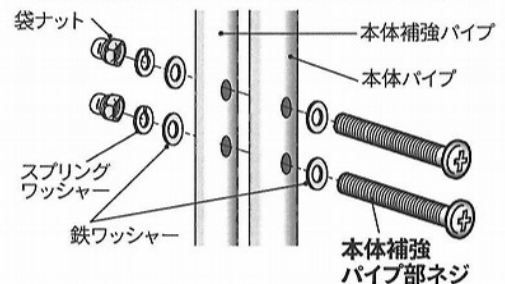
<取り付け後の確認>

- ①折りたたみレバーパイプと前脚パイプがしっかりと取り付けられていることを確認する
 - ②折りたたみレバーを可動し、車体をスムーズに開閉することができることを確認する
- ※袋ナットを締める際、袋ナットの袋部分に十分ネジが入り込んでいることを確認してください。
- ※折りたたみレバーパイプ部ネジの取り付け後の確認は特に慎重に行ってください。この箇所は車体のバランスを保つための重要な箇所です。開閉動作やバランスに違和感がある場合はメーカーへ修理の依頼をしてください。

必要工具
8mm ラチェットレンチ
かペンチ
プラスドライバー (3番)



必要工具
8mm ラチェットレンチ
かペンチ
プラスドライバー (3番)



WL0710：本体補強パイプ部ネジ

<取り付け方法>

- ①ネジ、鉄ワッシャー、スプリングワッシャーを正確に取り付ける

<取り付け後の確認>

- ①本体補強パイプと本体パイプがしっかりと取り付けられていることを確認する
- ※袋ナットを締める際、袋ナットの袋部分に十分ネジが入り込んでいることを確認してください。

必要工具
プラスドライバー (3番)

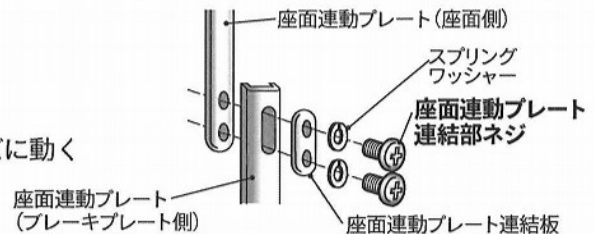
WL0711：座面連動プレート連結部ネジ (2 個 SET)

<取り付け方法>

- ①ネジ、スプリングワッシャーを正確に取り付ける

<取り付け後の確認>

- ①座面を上下し、座面連動プレートを可動させたとき、スムーズに動くことを確認する



WL0712：ハンドル高さ調節部六角ボルト

WL0713：ハンドル高さ調節部ノブナット

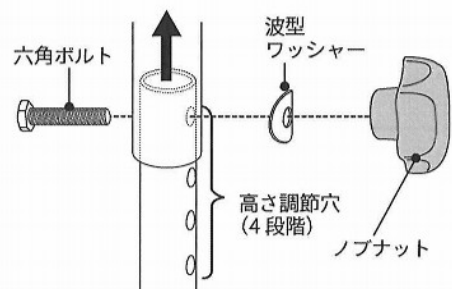
WL0714：ハンドル高さ調節部波型ワッシャー

<取り付け方法>

- ①六角ボルト、波型ワッシャー、ノブナットを正確に取り付ける
- ※P.2「ハンドル交換について」参照

<取り付け後の確認>

- ①ノブナットがしっかりと取り付けられていることを確認する



9. 樹脂パーツ①

<取り付け方法>

- ①古いパイプエンドツメとパイプの間にマイナスドライバーを差し込み、パイプエンドツメを外す
- ②新しいパイプエンドツメをパイプの挿入口に載せ、木づちで軽くたたき、はめ込む

<取り付け後の確認>

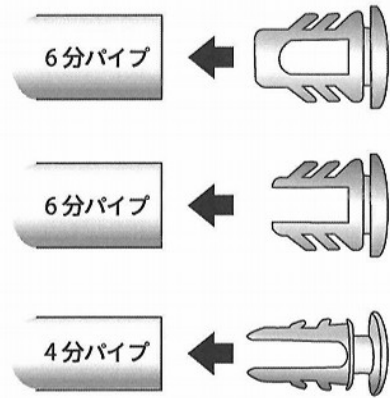
- ①パイプエンドツメがパイプの穴にきちんと差し込まれていることを確認する

WL0801：パイプエンドツメ 6分パイプ用
(座面横部)

WL0802：パイプエンドツメ 6分パイプ用
(本体補強パイプ部)

WL0803：パイプエンドツメ 4分パイプ用
(折りたたみレバーパイプ部)

必要
工具 マイナスドライバー
木づち



WL0804：傘受けブラケット

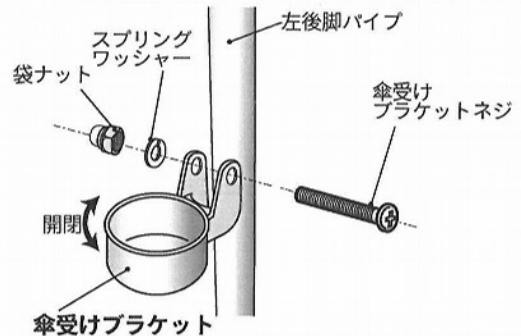
<取り付け方法>

- ①傘受けブラケットネジを外す
 - ②傘受けブラケットを新しいものに交換し、傘受けブラケットネジを取り付ける
- ※取り付けの際の袋ナットは、お取り寄せした傘受けブラケットに付属している新しいものを使用してください。
※P.12「傘受けブラケットネジ」参照

<取り付け後の確認>

- ①傘受けブラケットがスムーズに可動できることを確認する

必要
工具 8mm ラチェットレンチ
かペンチ
プラスドライバー (3番)



10. 樹脂パーツ②

WL0901：ハンドルグリップ

<取り付け方法>

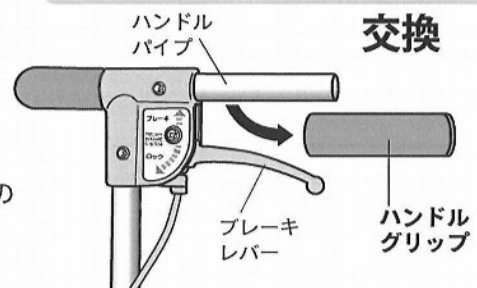
- ①古いハンドルグリップをカッターナイフで中心部分を縦方向へゆっくりと裂いて取り外す
 - ②新しいハンドルグリップを約 80 度以上のお湯に 5 分ほど浸ける
 - ③新しいハンドルグリップをお湯から取り出し、内側に少し水分を残した状態で外側の水気を拭き取り、ハンドルパイプに差し込む
- ※グリップは温かいうちに握り位置に合わせてください。
※カッターナイフのお取り扱いには十分注意してください。
※熱湯の取り扱いには十分注意してください。

<取り付け後の確認>

- ①ハンドルグリップが十分に冷めた後、ハンドルグリップをある程度の力で回しても、動かないことを確認する

必要
工具 カッターナイフ

その他 お湯(約 80 度以上)、布

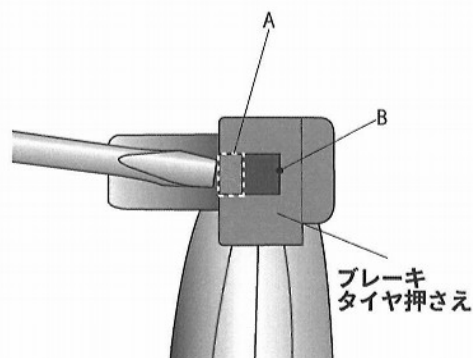


WL0902：ブレーキタイヤ押さえ(左右2個SET)

<取り付け方法>

- ① マイナスドライバーをブレーキタイヤ押さえの樹脂 A 部分(右イラスト参照)を盛り上げるように差し込む
 - ② マイナスドライバーでブレーキタイヤ押さえの B 部分(右イラスト参照)を外側に向かって押し外す
 - ③ 新しいブレーキタイヤ押さえをブレーキプレートにある程度押し込み、外側から木づちで軽くたたき、入れる
- ※ブレーキタイヤ押さえを交換する際は、必ず左右2個ともに交換してください。
- ※マイナスドライバーの取り扱いには十分に注意してください。

必要工具 マイナスドライバー
木づち



<取り付け後の確認>

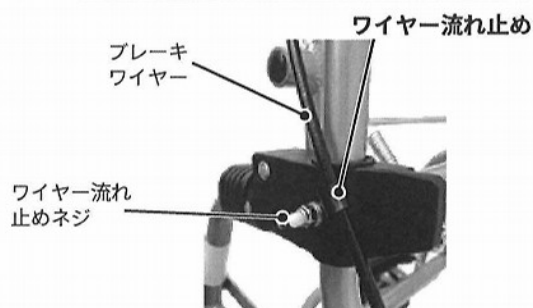
- ① ブレーキプレートにブレーキタイヤ押さえがしっかりと取り付けられていることを確認する
- ② ブレーキレバーを握り、ブレーキが正常に作動すること、ブレーキレバーをロック位置にすると駐車用ストッパが正常に作動することを確認する

WL0903：ワイヤー流れ止め

<取り付け方法>

- ① 交換する箇所のワイヤー流れ止めネジを外す
 - ② 新しいワイヤー流れ止めの間にブレーキワイヤーを挟んだ状態でネジを取り付ける
- ※P.12「ワイヤー流れ止めネジ」参照

必要工具 8mm ラチェットレンチ
かペンチ
プラスドライバー(3番)



<取り付け後の確認>

- ① ネジがきちんと取り付けられていることを確認する

WL0904：折りたたみレバーパイプ保護樹脂

<取り付け方法>

- ① 折りたたみレバーパイプ部の穴と保護樹脂の突起部分をはめ込む

<取り付け後の確認>

- ① 折りたたみレバーを上下し、パイプ同士が接触しないこと、保護樹脂が簡単に外れないことを確認する



11. 車輪系統

- ◆車輪を交換する際は、必ず左右の前輪 4 枚もしくは、後輪 2 枚ともに交換してください。
- ※車輪 1 枚 (片側) だけの交換は車体の動作が悪くなる恐れがあります。
- ◆お取り寄せされた車輪や車軸に含まれる、附属パーツ(ナット・樹脂ワッシャー類)も必ず交換してください。
- ◆ナットを締めるときは、ナットに十分にネジが入っていることを確認してください。
- ※ナットの締め付けが不十分な場合は、車輪が脱落する恐れがあり、大変危険です。

WL1001：前車輪(車輪 4 枚)

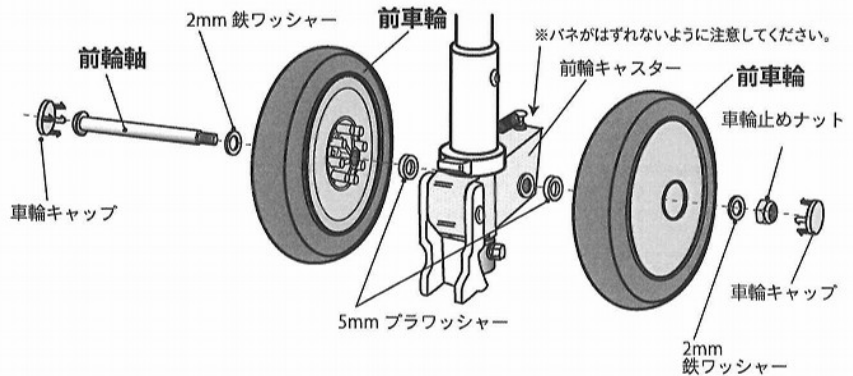
WL1005：前輪軸

<取り付け方法>

- ①車輪キャップと車輪との隙間にマイナスドライバーを差し込み、左右の前車輪キャップを外す
- ②左右の前輪軸のナットを緩め、車輪を外す
- ③車輪、又は車軸を交換し、車軸の向き、附属パーツを正確に取り付ける
- ④車輪キャップを取り付ける

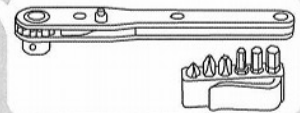
!ポイント

- *車輪の裏側から車輪キャップのツメを押し出すと傷つけにくい方法で車輪キャップを外すことができます。
- ※P.17「車輪キャップ」参照
- *前輪軸のナットを緩めるとき、プラスドライバー(3番)を使用しても外すことができない場合は、板ラチェットドライバーの使用を推奨します。



必要
工具

- 13mm ラチェットレンチ
- プラスドライバー(3番)
- マイナスドライバー
- 板ラチェットドライバー(3番)



<取り付け後の確認>

- ①車軸に取り付けたナットがきちんと締まっていることを確認する
- ②交換した車輪がスムーズに可動することを確認する

WL1002：後車輪(車輪 2 枚)

WL1006：後輪軸

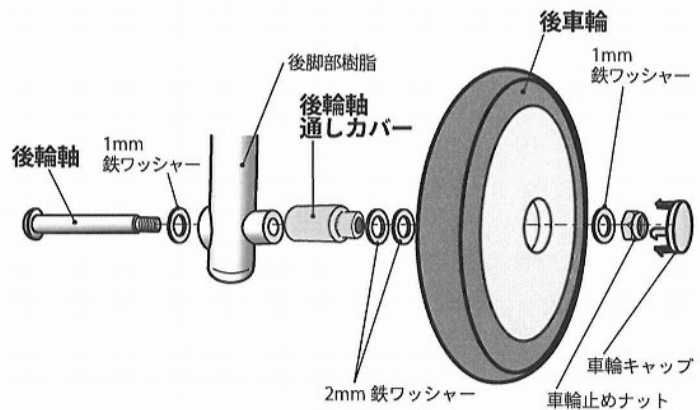
WL1008：後輪軸通しカバー

<取り付け方法>

- ①車輪キャップと車輪との隙間にマイナスドライバーを差し込み、左右の車輪キャップを外す
- ②左右の後輪軸のナットを緩め、車輪を外す
- ③車輪、又は車軸を交換し、車軸の向き、附属パーツを正確に取り付ける
- ④車輪キャップを取り付ける

!ポイント

- *車輪の裏側から車輪キャップのツメを押し出すと傷つけにくい方法で車輪キャップを外すことができます。
- ※P.17「車輪キャップ」参照
- *後輪軸のナットを緩めるとき、プラスドライバー(3番)を使用しても外すことができない場合は、板ラチェットドライバーの使用を推奨します。



必要
工具

- 13mm ラチェットレンチ
- プラスドライバー(3番)
- マイナスドライバー
- 板ラチェットドライバー(3番)

<取り付け後の確認>

- ①車軸に取り付けたナットがきちんと締まっていることを確認する
- ②交換した車輪がスムーズに可動することを確認する

WL1003：車輪キャップ

<取り付け方法>

- ①車輪キャップと車輪の隙間にマイナスドライバーを差し込み、車輪キャップを外す
- ②車輪のツメ穴と車輪キャップのツメを4ヶ所合わせ、車輪キャップを差し込む

！ポイント

*車輪の裏側から車輪キャップのツメを押し出すと傷つけにくい方法で車輪キャップを外すことができます。

<取り付け後の確認>

- ①車輪キャップがきちんと車輪に取り付けられていることを確認する

WL1004：前輪キャスト受け

<取り付け方法>

- ①前輪キャスト受けネジを取り外す
 - ②前輪キャスト受けを交換し、ネジを取り付ける
- ※取り付けの際、ナイロンナットはお取り寄せされた前輪キャスト受けに付属している新しいものを使用してください。
- ※P.12「前輪キャスト受けネジ」参照

！ポイント

*先が長いプラスドライバー(3番)であれば、車輪のホイール部分の隙間から差し込み、ペンチで回し外すことができます。

<取り付け後の確認>

- ①前輪キャスト受けネジのナイロンナットがしっかりと取り付けられていることを確認する

WL1007：前輪キャスト(車輪無)(左)

WL1017：前輪キャスト(車輪無)(右)

<取り付け方法>

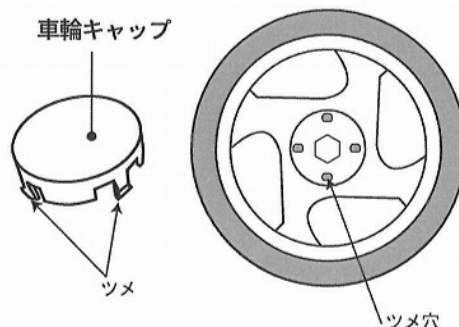
- ①交換する前輪キャスト側のスタビライザーを外す
 - ②交換する箇所の前車輪と前輪キャスト受けを外す
 - ③前輪キャストバネを外す
 - ④前輪キャスト(車輪無)を交換する
 - ⑤前輪キャストバネを取り付ける
 - ⑥前輪キャスト受けと前車輪を取り付ける
 - ⑦前輪キャストにスタビライザーを取り付ける
- ※取り付けの際、それぞれのナットはお取り寄せされた前輪キャスト(車輪無)に付属している新しいものを使用してください。
- ※P.19「スタビライザー」参照
- ※P.16「前車輪(車輪4枚)」・「前輪軸」参照
- ※P.17「前輪キャスト受け」参照
- ※P.10「前輪キャストバネ」参照

<取り付け後の確認>

- ①車軸に取り付けたナットがきちんと締まっていることを確認する
- ②前輪キャスト受けネジのナイロンナットがしっかりと取り付けられていることを確認する
- ③スタビライザーの袋ナットがしっかりと取り付けられていることを確認する
- ④前輪キャストを左右に振り、正常に可動することを確認する

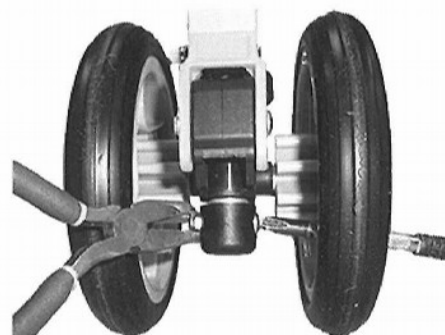
必要
工具

マイナスドライバー



必要
工具

8mm ラチェットレンチ
かペンチ
プラスドライバー(3番)



必要
工具

8mm ラチェットレンチ
かペンチ
プラスドライバー(3番)
13mmラチェットレンチ
ラジオペンチ

WL1009：前輪キャスター上部樹脂

<取り付け方法>

- ①交換する側のスタビライザーの袋ナットを外す
 - ②交換する側の前輪キャスター受けを外す
 - ③前輪キャスターバネを外す
 - ④車輪が装着した状態の前輪キャスターを外す
 - ⑤前輪キャスター上部樹脂取付ネジを外す
 - ⑥新しい前輪キャスター上部樹脂と交換し、前輪キャスター上部樹脂取付ネジを取り付ける
 - ⑦車輪が装着された状態の前輪キャスターを前脚パイプにはめ込み、前輪キャスターバネを取り付ける
 - ⑧前輪キャスターのスタビライザー取付プレートにスタビライザーを取り付けてから、前輪キャスター受けを取り付ける
- ※取り付けの際、それぞれのナットはお取り寄せされた前輪キャスター上部樹脂に付属している新しいものを使用してください。
- ※P.19「スタビライザー」参照
 ※P.17「前輪キャスター受け」参照
 ※P.10「前輪キャスターバネ」参照
 ※P.12「前輪キャスター上部樹脂取付ネジ」参照

**必要
工具**

8mm ラチェットレンチ
 かペンチ
 プラスドライバー (3 番)
 ラジオペンチ

<取り付け後の確認>

- ①前輪キャスター上部樹脂がしっかりと取り付けられていることを確認する
- ②前輪キャスター受けネジとナイロンナット、前輪キャスター上部樹脂取付ネジと袋ナット、スタビライザーとスタビライザー専用袋ナットがそれぞれにしっかりと取り付けられていることを確認する
- ③前輪キャスターを左右に振り、正常に可動することを確認する

WL1010：後輪部樹脂(左右 2 個 SET)

<取り付け方法>

- ①後車輪(左右)と後輪軸(左右)を外す
 - ②ブレーキプレート取付ネジ(左右)を外す
 - ③後輪ブレーキバネ(左右)を外す
 - ④新しい後輪部樹脂(左右)を交換する
 - ⑤ブレーキプレート取付ネジ(左右)を取り付ける
 - ⑥後輪ブレーキバネ(左右)を取り付ける
 - ⑦後車輪(左右)と後輪軸(左右)を取り付ける
- ※取り付けの際、袋ナット、車輪止めナットはお取り寄せされた後輪部樹脂(左右 2 個 SET)に付属している新しいものを使用してください。
- ※P.16「後車輪(車輪 2 枚)」・「後輪軸」参照
 ※P.13「ブレーキプレート取付ネジ」参照
 ※P.10「後輪ブレーキバネ」参照
 ※P.3「ブレーキ設定について」参照
 ※P.4「座面連動プレートの調整について」参照

**必要
工具**

13mm 用ラチェットレンチ
 8mm ラチェットレンチ
 またはペンチ
 プラスドライバー (3 番)
 マイナスドライバー
 ラジオペンチ

<取り付け後の確認>

- ①車軸に取り付けた車輪止めナットがきちんと締まっていることを確認する
- ②ブレーキプレート取付ネジの袋ナットがしっかりと取り付けられていることを確認する
- ③ブレーキレバーを握り、ブレーキが正常に作動すること、ブレーキレバーをロック位置にした時に駐車用ストッパが正常に作動することを確認する
- ④座面を下ろしたときに、座面連動プレートが正常に作動することを確認する

WL1011：スタビライザー

<取り付け方法>

- ①前輪キャスターのスタビライザー取付プレートにスタビライザーを差し込み、袋ナットで取り付ける

必要
工具

8mm ラチェットレンチ
かペンチ

<取り付け後の確認>

- ①前車輪を動かし、前輪が左右同時に可動することを確認する
※袋ナットを締める際、袋ナットの袋部分に十分ネジが入り込んでいることを確認してください。

12. ブレーキ系統

◆ブレーキ系統のパーツ交換の後は、必ず再度ブレーキ設定を行ってください。

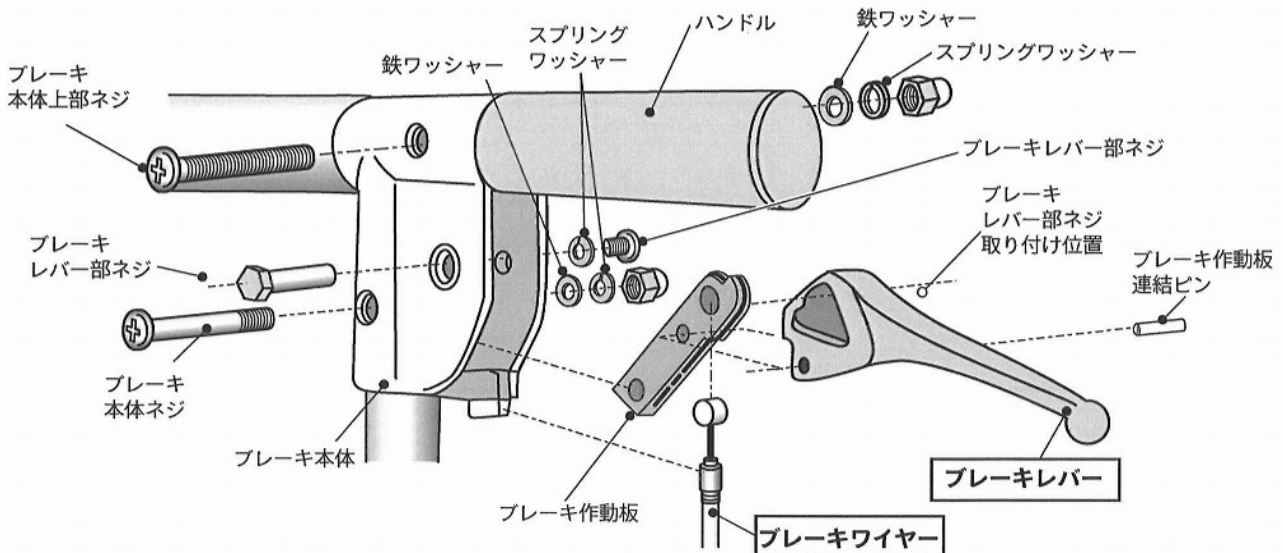
※P.3「ブレーキ設定について」参照

◆ブレーキ系統のパーツが破損した場合は、外部からの過度な圧力により破損している可能性があります。交換の際には、他のパーツやフレームなどの点検を十分に行ってください。

◆お取り寄せしていただいたネジセットに含まれる、附属パーツ(袋ナット、ワッシャー類)も必ず交換してください。

◆袋ナットを締める際は、ナットの袋部分に十分にネジが入っていることを確認してください。

◆取り付け後は、確認作業及び袋ナットの緩みが生じていないことを確認してください。



WL1101：ブレーキレバー

<取り付け方法>

- ①ワイヤー止めナットを緩める
 - ②ブレーキ本体ネジを取り外す
 - ③ブレーキレバー部ネジを取り外す
 - ④ブレーキ作動板とブレーキレバーを留めている、ブレーキ作動板連結ピンをラジオペンチなどで軽く押し出し、ブレーキレバーを交換する(右図参照)
 - ⑤ブレーキ作動板とブレーキレバーをブレーキ作動板連結ピンで組み立てる
 - ⑥ハンドルに⑤のブレーキレバーを差し込む
 - ⑦ブレーキレバー部ネジを取り付ける
 - ⑧ブレーキ本体ネジを取り付ける
 - ⑨ブレーキ設定を行う
 - ⑩座面連動プレートの調整を行う
- ※取り付けの際、袋ナットはお取り寄せされたブレーキレバーに付属している新しいものを使用してください。
 ※座面連動プレートの調整はブレーキ設定をした際に、必ず行ってください。
 ※P.11「ブレーキ本体ネジ」参照 ※P.11「ブレーキレバー部ネジ」参照
 ※P.22「ブレーキ作動板」参照 ※P.3「ブレーキ設定について」参照
 ※P.4「座面連動プレートの調整について」参照

必要工具

- 8mm ラチェットレンチ
- かペンチ
- 10mm ラチェットレンチ
- プラスドライバー(3番)
- ラジオペンチ



<取り付け後の確認>

- ①ブレーキ本体ネジの袋ナットがしっかりと取り付けられていることを確認する
- ②ブレーキレバーを握り、ブレーキが正常に作動すること、ブレーキレバーをロック位置にすると駐車用ストッパが正常に作動することを確認する
- ③座面を下ろしたときに、座面連動プレートが正常に作動することを確認する

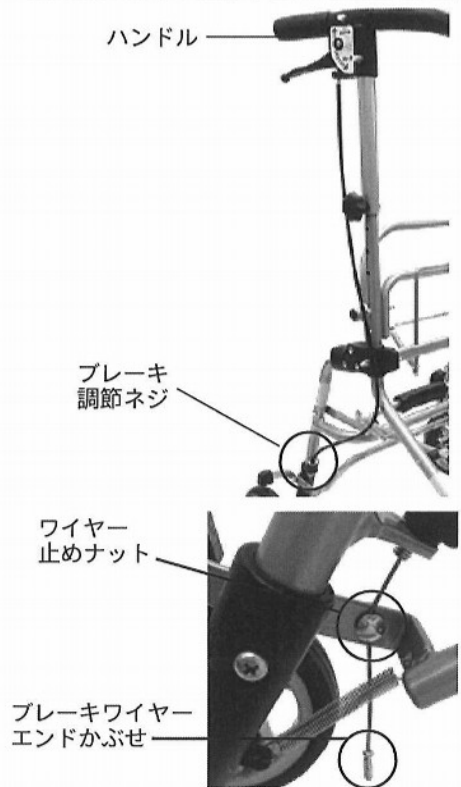
WL1102：ブレーキワイヤー

<取り付け方法>

- ①ブレーキワイヤーエンドかぶせを外す
 - ②ブレーキレバーをハンドルから外す
 - ③ブレーキ作動板からブレーキワイヤーを外す
 - ④ブレーキ作動板とブレーキレバーをブレーキ作動板連結ピンで組み立てる
 - ⑤ハンドルに④のブレーキレバーを取り付ける
 - ⑥ブレーキワイヤーの先端にブレーキワイヤーエンドかぶせを取り付ける
 - ⑦ブレーキ設定を行う
 - ⑧座面連動プレートの調整を行う
- ※取り付けの際、袋ナットとブレーキワイヤーエンドかぶせはお取り寄せされたブレーキワイヤーに付属している新しいものを使用してください。
 ※座面連動プレートの調整はブレーキ設定をした際に、必ず行ってください。
 ※P.24「ブレーキワイヤーエンドかぶせ」参照
 ※P.20「ブレーキレバー」参照
 ※P.3「ブレーキ設定について」参照
 ※P.4「座面連動プレートの調整について」参照

必要工具

- 8mm ラチェットレンチ
- かペンチ
- 10mm ラチェットレンチ
- プラスドライバー(3番)
- ラジオペンチ



<取り付け後の確認>

- ①ブレーキ本体ネジの袋ナットがしっかりと取り付けられていることを確認する
- ②ブレーキレバーを握り、ブレーキが正常に作動すること、ブレーキレバーをロック位置にすると駐車用ストッパが正常に作動することを確認する
- ③座面を下ろしたときに、座面連動プレートが正常に作動することを確認する

WL1103：ワイヤー止めナット

<取り付け方法>

- ①ブレーキワイヤーエンドかぶせを外す
- ②ブレーキワイヤーをワイヤー止めナットから外し、新しいワイヤー止めナットと交換する
- ③ブレーキワイヤーの先端にブレーキワイヤーエンドかぶせを取り付ける
- ④ブレーキ設定を行う
- ⑤座面連動プレートの調整を行う

※取り付けの際、ブレーキワイヤーエンドかぶせはワイヤー止めナットには付属されていません。別途、お取り寄せしてください。

※座面連動プレートの調整はブレーキ設定をした際に、必ず行ってください。

※P.24「ブレーキワイヤーエンドかぶせ」参照

※P.3「ブレーキ設定について」参照

※P.4「座面連動プレートの調整について」参照

必要
工具

10mm ラチェットレンチ
ペンチ、ラジオペンチ



<取り付け後の確認>

- ①ブレーキレバーを握り、ブレーキが正常に作動すること、ブレーキレバーをロック位置にすると駐車用ストッパが正常に作動することを確認する
- ②座面を下ろしたときに、座面連動プレートが正常に作動することを確認する

WL1104：ブレーキ調節ネジ

<取り付け方法>

- ①ブレーキワイヤーエンドかぶせを外す
- ②ブレーキワイヤーをワイヤー止めナット、ブレーキ調節ネジの順に外す
- ③ブレーキ調節ネジを交換する
- ④ブレーキワイヤーをブレーキ調節ネジ、ワイヤー止めナットの順に通す
- ⑤ブレーキワイヤーの先端にブレーキワイヤーエンドかぶせを取り付ける
- ⑥ブレーキ設定を行う
- ⑦座面連動プレートの調整を行う

※取り付けの際、ブレーキワイヤーエンドかぶせはブレーキ調節ネジには付属されていません。別途、お取り寄せしてください。

※座面連動プレートの調整はブレーキ設定をした際に、必ず行ってください。

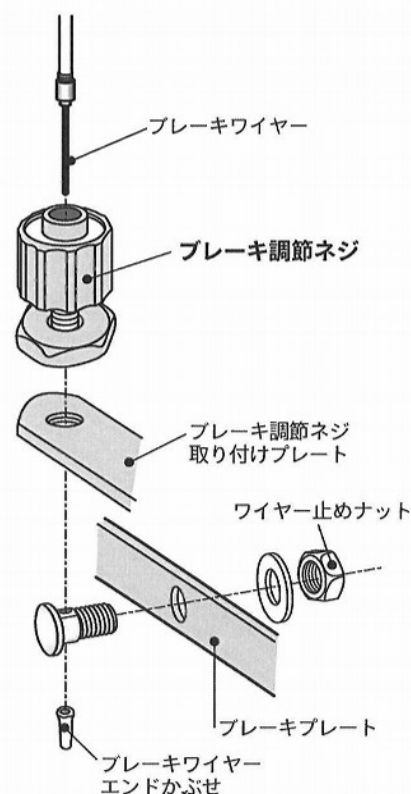
※P.24「ブレーキワイヤーエンドかぶせ」参照

※P.3「ブレーキ設定について」参照

※P.4「座面連動プレートの調整について」参照

必要
工具

10mm ラチェットレンチ
ペンチ、ラジオペンチ



<取り付け後の確認>

- ①ブレーキレバーを握り、ブレーキが正常に作動すること、ブレーキレバーをロック位置にすると駐車用ストッパが正常に作動することを確認する
- ②座面を下ろしたときに、座面連動プレートが正常に作動することを確認する

WL1105：ブレーキ作動板

<取り付け方法>

- ①ブレーキレバーをハンドルから取り外す
- ②ブレーキ作動板をブレーキワイヤーから取り外し、交換する
- ③ブレーキ作動板とブレーキレバーをブレーキ作動板連結ピンで組み立てる
- ④ハンドルに③で組み立てたブレーキレバーを取り付ける
- ⑤ブレーキ設定を行う
- ⑥座面連動プレートの調整を行う

※取り付けの際、袋ナットはお取り寄せしたブレーキ作動板に付属している新しいものを使用してください。

※座面連動プレートの調整はブレーキ設定をした際に、必ず行ってください。

※P.20「ブレーキレバー」参照

※P.3「ブレーキ設定について」参照

※P.4「座面連動プレートの調整について」参照

<取り付け後の確認>

- ①ブレーキ本体ネジの袋ナットがしっかり取り付けられていることを確認する
- ②ブレーキレバーを握り、ブレーキが正常に作動すること、ブレーキレバーをロック位置にすると駐車用ストッパが正常に作動することを確認する
- ③座面を下ろしたときに、座面連動プレートが正常に作動することを確認する

WL1106：ブレーキ作動板連結ピン

<取り付け方法>

- ①ブレーキレバーをハンドルから取り外す
- ②ブレーキ作動板とブレーキレバーを留めているブレーキ作動板連結ピンを、ラジオペンチの先端部分で軽く押し出し、ブレーキ作動板連結ピンを交換する
- ③ブレーキ作動板とブレーキレバーをブレーキ作動板連結ピンで組み立てる
- ④ハンドルに③で組み立てたブレーキレバーを取り付ける
- ⑤ブレーキ設定を行う
- ⑥座面連動プレートの調整を行う

※取り付けの際、袋ナットはブレーキ作動板連結ピンには付属されていません。別途、お取り寄せしてください。

※座面連動プレートの調整はブレーキ設定をした際に、必ず行ってください。

※P.20「ブレーキレバー」参照

※P.22「ブレーキ作動板」参照

※P.3「ブレーキ設定について」参照

※P.4「座面連動プレートの調整について」参照

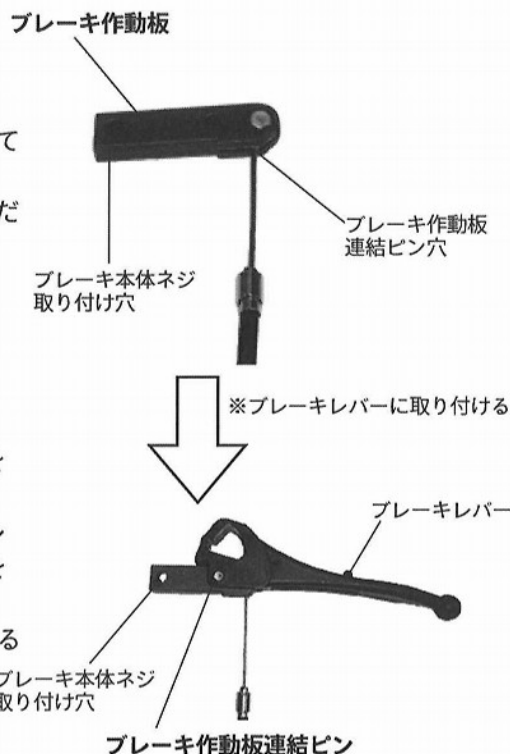
※P.4「座面連動プレートの調整について」参照

<取り付け後の確認>

- ①ブレーキ本体ネジの袋ナットがしっかり取り付けられていることを確認する
- ②ブレーキレバーを握り、ブレーキが正常に作動すること、ブレーキレバーをロック位置にすると駐車用ストッパが正常に作動することを確認する
- ③座面を下ろしたときに、座面連動プレートが正常に作動することを確認する

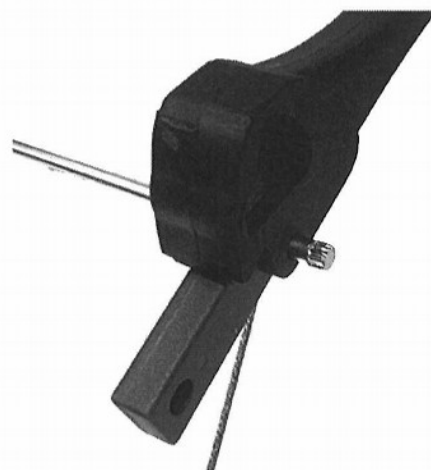
必要
工具

8mm ラチェットレンチ
かペンチ
10mm ラチェットレンチ
プラスドライバー (3番)
ラジオペンチ



必要
工具

8mm ラチェットレンチ
かペンチ
10mm ラチェットレンチ
プラスドライバー (3番)
ラジオペンチ



WL1107：座面連動プレート連結板

<取り付け方法>

- ①座面連動プレート連結部ネジを2ヶ所外す
- ②座面連動プレート連結板を交換する
- ③座面連動プレート連結部ネジを2ヶ所取り付ける
- ④座面連動プレートの調整を行う

※座面連動プレートの調整は必ず行ってください。

※P.13「座面連動プレート連結部ネジ」参照

※P.4「座面連動プレートの調整について」参照

<取り付け後の確認>

- ①座面を上下させ、座面連動プレートがスムーズに可動することを確認する

必要
工具

プラスドライバー(3番)

WL1108：ブレーキプレート

<取り付け方法>

- ①ブレーキワイヤーエンドかぶせ(左右)を外す
- ②後輪ブレーキバネ(左右)を外す
- ③ワイヤー止めナット(左右)を緩め、ブレーキワイヤー(左右)を外す
- ④ブレーキプレート取付ネジ(左右)を外す
- ⑤取り外したブレーキプレートのワイヤー止めナットを外し、新しいブレーキプレートにワイヤー止めナットを取り付ける
- ⑥新しいブレーキプレートをブレーキプレート取付ネジで取り付ける
- ⑦ワイヤー止めナット(左右)へブレーキワイヤーを通す
- ⑧後輪ブレーキバネ(左右)を取り付ける
- ⑨ブレーキワイヤーエンドかぶせ(左右)を取り付ける
- ⑩ブレーキ設定を行う

- ⑪座面連動プレートの調整を行う

※取り付けの際、袋ナットはお取り寄せされたブレーキプレートに付属している新しいものを使用してください。

※座面連動プレートの調整はブレーキ設定をした際に、必ず行ってください。

※P.24「ブレーキワイヤーエンドかぶせ」参照

※P.10「後輪ブレーキバネ」参照

※P.21「ワイヤー止めナット」参照

※P.13「ブレーキプレート取付ネジ」参照

※P.3「ブレーキ設定について」参照

※P.4「座面連動プレートの調整について」参照

<取り付け後の確認>

- ①ブレーキプレート取付ネジの袋ナットがしっかりと取り付けられていることを確認する
- ②ブレーキレバーを握り、ブレーキが正常に作動すること、ブレーキレバーをロック位置にした時に駐車用ストッパが正常に作動することを確認する
- ③座面を下ろしたときに、座面連動プレートが正常に作動することを確認する

必要
工具

8mm ラatchetレンチ
かペンチ
10mm ラatchetレンチ
プラスドライバー(3番)
ラジオペンチ

13. 附属パーツ系統

WL1201：車輪止めナット

- ◆車輪や車軸の交換の際に使用する
- ※P.16「前車輪(車輪4枚)」・「前輪軸」参照
- ※P.16「後車輪(車輪2枚)」・「後輪軸」参照

<取り付け後の確認>

- ①車軸に取り付けたナットがきちんと締まっていることを確認する

必要
工具

13mm ラチェットレンチ
プラスドライバー(3番)

WL1202：ナイロンナット(φ5)

- ◆キャスター等の交換の際に使用する
- ※P.17「前輪キャスター受け」参照
- ※P.17「前輪キャスター(車輪無)(左)」・「前輪キャスター(車輪無)(右)」参照

<取り付け後の確認>

- ①ナイロンナットを締める際、ネジが入り込んでいることを確認する

必要
工具

8mm ラチェットレンチ
かペンチ
プラスドライバー(3番)

WL1203：ブレーキワイヤーエンドかぶせ

<取り付け方法>

- ①ブレーキワイヤーの先端にブレーキワイヤーエンドかぶせを奥まで差し込み、ラジオペンチで押しつぶす

<取り付け後の確認>

- ①ブレーキワイヤーエンドかぶせがしっかりと取り付けられていることを確認する
- ※ブレーキワイヤーの先端は指などを傷つけてしまう恐れがあります。
必ず、ブレーキワイヤーの先端に取り付けてください。

必要
工具

ラジオペンチ



ブレーキワイヤー
エンドかぶせ

WL1204：袋ナット

- ◆ネジ系統の袋ナット交換の際に使用します。

<取り付け後の確認>

- ①袋ナットの袋部分にネジがきちんと締まっていることを確認する

WL1205：袋ナット(スタビライザー専用)

- ◆スタビライザーの交換の際に使用します。

<取り付け後の確認>

- ①袋ナットの袋部分にネジがきちんと締まっていることを確認する

お疲れ様でした。
 パーツ交換をされた車体は必ず、メンテナンスチェックリストに従い
 点検を再度行い、不具合がないことを確認してください。

車体の保管・お手入れ・破棄について

<保管・お手入れについて>

- ◆火気の近くでは保管しないでください。
- ◆非常口や消火器類の前での保管はしないでください。
- ◆雨ざらしにしないでください。錆や劣化の原因になります。
- ◆車体が濡れた時は、乾いた布で拭き取ってください。
- ◆長期間使用しない場合は、高温多湿の場所での保管は避けてください。
- ◆寒暖の差が激しいところでの保管は、バッグなどの変色や硬化、車体の劣化、動作不良などの原因となる場合があります。
- ◆メンテナンスが終了した車体を長期間保管していた場合は、使用する前に再度、メンテナンスチェックリストによる点検作業を行ってください。

<破棄について>

- ◆各自治体の指示に従って、処分・破棄をしてください。